

ペットが SFTS(重症熱性血小板減少症候群) と診断されたら



～飼い主さんの感染を防ぐために～

**SFTSは、人にもペットにも重い病気を引き起こします。
感染したペットは入院をして体の中からウイルスが消えるまで
治療が必要です！**



✔ ペットから人へ感染し、重篤化します

OSFTS ウイルスは、マダニに刺咬されて感染するほか、感染したペットの血液、涙、唾液、糞、尿、嘔吐物などに大量に含まれます。

それらから、人や動物が感染し、重篤化します。

○飼い主や家族、近隣の方、そして他の動物への感染を拡げないように、感染したペットは動物病院へ預け、治療を行う必要があります。

✔ 家庭で必要な感染対策とは？ やむを得ず自宅で対応する際の注意事項

<飼育環境・感染対策>

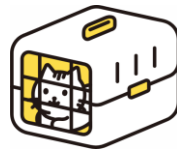
□ケージ内に隔離しましょう。

□世話をする人を決め、限定しましょう。

□ペットやペットの体液に触れる際は、必ずグローブ、マスク、アイガードを着用し、絶対に素手では触らないようにしましょう。

□トイレやケージは、消毒用アルコールや0.5%次亜塩素酸ナトリウムで消毒しましょう。

□同居動物がいる場合は、動物同士が直接接触しないよう部屋やケージを分けましょう。



<感染したペットの状態・対応>

・診断後、数日以内にけいれん発作を起こすことがあります。

発作中に咬まれたり、飛び散った体液に触れたりしないように注意しましょう。

・必ず動物病院を再診し、再検査によりウイルスが陰性になったことを確認しましょう。
見た目には回復しているように見えてもウイルスの排泄は数週間程持続しています。

✔ 飼い主さんへの注意事項

・感染対策せずに最後にペットに接触してから14日程度、健康状態の確認をしましょう。

・発熱、腹痛、嘔吐、下痢、頭痛、筋肉痛などの体調不良があった際は、医療機関に連絡し、自身のペットが SFTS と診断されたことを伝えて受診しましょう。